

# かわらぬ美しさを保て

榎田神社屋根  
県瓦組合清掃

福岡市博多区上川端町の榎田神社で8日、県瓦商工組合（友池輝夫理事長）の組合員25人ほどが、楼門や榎田会館の屋根の点検や清掃活動を行った。

漢字の「八」が屋根の形に似ていることから、上部団体の全日本瓦工事業連盟は8月8日を「屋根の日」としている。県瓦商工組合でも昨年からは屋根が用いられている古城や神社などのボランティア清掃を行い、耐久性に優れた瓦屋根の良さをPRしている。

この日は、若手組合員が明治期の1869年に再建



楼門の屋根の点検と清掃を行う県瓦商工組合の人たち

された楼門屋根に上り、シタやコケが生えた土を取り除き、瓦にずれがないか点検した。友池理事長は「耐震性や耐風性をアップさせた工法を組合で開発しており、災害に強いのが瓦屋根の特徴です」と話した。

毎日新聞  
2015年(平成27年)8月9日(日)



急勾配の楼門の屋根に上り、瓦を点検する職人たち

## 榎田神社で点検、清掃

「屋根の日」で県瓦商工組合

### 職人らが作業に汗

県瓦商工組合（友池輝夫理事長）は8日、博多区上川端町1の榎田神社で、瓦屋根の点検と清掃をした。瓦の良さを知ってもらおうと「屋根の日」（8日）に合わせて昨年からは始めた取り組み。

職人らが境内の楼門など上り、瓦がずれがないか確認したり、生えたコケを取り除いたりした。

組合によると、楼門の屋根は平瓦と丸瓦を組み合わせた本瓦葺で、約1万枚が使われているという。

担当した福原将臣さん（39）は「強度は十分に保たれていた。瓦は日差しで熱せられ、素手で触れるとやけどしそうだった」と話していた。

【平川昌範】

## 榎田神社の楼門 屋根の日に点検

瓦職人らボランティア

「屋根の日」の8日、福岡市博多区の榎田神社の楼門の屋根などを県内の瓦職人らがボランティアで清掃、点検した。数人が命綱を手



に屋根の上を動き回った。瓦の安全性や耐久性を知ってもらおうと、県瓦商工組合（福岡市南区）が企画。楼門の屋根は、平瓦と丸瓦を組み合わせた「本瓦葺」という丈夫な工法。その屋根などを県内の瓦職人らがボランティアで清掃、点検した。数人が命綱を手

この日は福岡市でも気温34度を超えた。参加した瓦施工業の岩田健太さん（32）は「暑さに負けず集中してやりました。はがれがなかったのが良かったです」と話していた。（柴田菜々子）